

でき
あい
超愛
プラネット!②

ちようびけい
超美形アイドルグループと
なまはいしん
はじめての生配信♡

あいら / 著
こぼと
小鳩ぐみ / イラスト

黒月士和

PLANETのリーダーで星のクラ

スメイト。中一。メインボーカル。

圧倒的なルックスと歌唱力の

もち主。

日向星

中一。明るくて太陽みたいな

女の子。ソングライター兼

PLANETのプロデューサー。

緋宮 金色

中二。優しく真面目な
好青年。演技もうまい。

ラップ担当。

赤羽 火虎

中二。笑顔が可愛い元氣

なムードメーカー。低音

が得意。

若槻 木央

中一。ふだんは無口で無表

情。ラップ担当。ステラの

大ファン。

青海 水牙

中一。偉い系美男子。自

信家アツンデシ。高音

が得意。

冷泉 エリス

中一。星の小学校からの友人。性
格も見た目もイケメンな頼りに
なる女の子。

冥王 準

中一。星のことが好きですぐに絡
んでくる隣のクラスの男子。

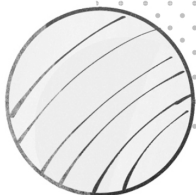
世河

大手芸能事務所MORFIDのプロ
デューサー。ステラに楽曲提供を依頼



もくじ

- 005 これまでのあらすじ
じ こしょうかい
- 006 自己紹介
さくせんかいぎ
- 012 作戦会議！
しんまい
- 027 新米プロデューサー
がっしやく
- 034 合宿
ゆたし
- 045 私にできること
てんもんぶ
- 056 天文部へようこそ
さいど とゆ たの んざい
- 065 [side 土和] 頼もしい存在
てんもんぶ いちいん
- 073 天文部の一員
なかつ
- 081 もっと仲良く
めざ おうじさま
- 090 目指せ王子様？
さいど くい が へん
- 100 [side 水牙] 変なやつ
りくさん
- 109 りくさん
さいど かいり まようみ
- 116 [side 海里] 興味
えすえすえす たんとう
- 126 SNS担当
さいど くい が りゆう
- 136 [side 水牙] かわいいの理由
いちばん だれ
- 138 一番は誰？
さいど とゆ しつと
- 147 [side 土和] 嫉妬
さいしゆう
- 151 最終リハーサル
えんじん
- 160 円陣
はつ えすえすえす
- 167 初SNSライブ！
ぷらねっと と
- 177 PLANETは止まらない！
はじめまして？
- 183 はじめまして？



これまでのあらすじ

ひなたせい と ない しりつちゅうがく かくせいがくえん がよ おんがく
日向星は、都内の私立中学「惑星学園」に通う音楽が

だいす ちゅうがくせい あか せい にんきもの
大好きな中学生。やさしくて明るい星は、みんなの人気者。

だけど、そんな星には誰にも言っていない秘密がある。それは

——超人気ソングライター・ステラとして活動しているってこと。

がっきょくていきょう いらい ことめ おおてげいのうじむしよ おとぎ
楽曲提供の依頼を断るために大手芸能事務所を訪れた

せい お かいさんきき ぼめん もくげき くれ
星は、押しゲルの解散危機の場面を目撃！ そんな彼らを

がっきょくていきょう すぐ せい
楽曲提供で救った星。

ある日、なぜかクラスの地味男子・黒月くんにひっぱられ、

つ さき つうしやう ぼ よ じみだんし あつ
着いた先は通称おばけ部と呼ばれている地味男子の集ま

てんもんぶ
りの天文部だった。

そこで、天文部のみんながPLANETのメンバーだと知った星。

メンバーからの熱烈なアプローチを受け、PLANETのプロ

デューサーを引き受けた星は、PLANETはじめてのSNSライブ

む ぼうしんちやう
ブに向けてメンバーと猛進中っ！





自己紹介

「ああ……ぜひに、トップアイドルになる」
PLANETのみんなと、夢を追いかける日々が……今ここからはじまったんだ。

「さっそくこれからのこと決めようぜ！」

元気いっばいな声で言った水牙くんの肩を、金色くんがそっと叩いた。

「その前に、まずはきちんと自己紹介しよう」

あ……たしかに、みんなのことをほとんど何も知らなかった。

私^{わたし}が知っているのは、みんなの歌い方^{うたかた}と名前^{なまえ}くらい。それに、私^{わたし}もちゃんと自己紹介^{じこしょうかい}をしていなかったから……あいさつしないと。

「そういえば……みんな本名^{ほんみょう}で活動^{かつどう}してるの？」

気^きになったことを質問^{しつもん}すると、土和^{とわ}くんが答^{こた}えてくれた。

「前の事務所^{まえのじむしょ}の方針^{ほうしん}だったんだ」

なるほど……WORLDは本名で活動しないとけけないんだ……。

「バレたりしない……?」

「下の名前だけだから、今のところは平気」

「そうそう。それに、そのための変装だからな」

得意げに微笑んだ水牙くんは、苦笑いをする。

た、たしかに、そうだよな。

ここままでしっかり変装していたら、バレる心配もないのかな……あはは。

「それじゃあ、改めて僕から自己紹介させてもらおうね」

金色くんはそう言って、ふわりと微笑んだ。

「緋宮金色です。特技は歌と演技。メンバーカラーはオレンジで、趣味は読書と芸術鑑賞。二

年だよ」

続くように、火虎くんが手をあげた。

「俺は金色と同じ二年の赤羽火虎! メンカラーは赤! 特技は踊ることと趣味もダンスです!」

「火虎は何度も大会で優勝したことがあるんだ。二年は僕と火虎だけで、他のみんなは一年だ

よ」

大会で優勝って……すごい……！

ふたりだけってことは……水牙くんと木央くんも、私と同級生なんだ。

「じゃあ次俺！ 青海水牙、一年。特技は……んー、なんでもできる！ メンカラは青！」

元氣よく自己紹介をしてくれた水牙くんは、「あー……」と気まずそうに隣の木央くんを見た。

「こいつは若緑木央。無口なんだよ。機嫌が悪いとかじゃなくて、くちかすすく口数少ないだけだから気に

すんな。メンカラは緑な！ 俺たちの中では機械に強いほうで、PLANETの動画編集して

れるのも木央。ちっさいけど、けっこう頼りになるんだよ」

「ちっさいは余計……成長期……」

木央くんはムツと少しだけ口を尖らせた。

「あと、木央は女子が苦手なんだよな」

そうなんだ……だったら、木央くんにはあまり近づかないほうがいいよね。

「大丈夫……！」

え？

「ステラさんは、平気だから……」

私に気をつかってくれたのかな……？

木央くん、表情が読めないけど……きっと優しい人なんだろうな。

「ありがとう」

お礼を言つと、木央くんは気まずそうに視線をそらした。

「これからも……よろしく……」

「いちからこそー」

木央くんは大丈夫だと言ってくれたけど……木央くんと話す時は、距離感に気をつけよう。女の子が苦手なんて、きっと何か理由があるんだろうし、無理はしてほしくないから。

「えっと、最後に俺だけど……」

私を見て、困ったように眉の端を下げた土和くん。

「黒月土和。歌が好きで、特技も趣味も歌うこと。音楽は全般好き。メンバーカラーは黒。同じ

じクラスだから……改めて自己紹介っていうのも変だけど……」

た、たしかに……あはは。

私知っているのは、アイドルとしての土和くんじゃなくて、同じクラスの黒月土和くんだけど、毎日顔を合わせているし、今さら自己紹介するのも違和感があった。

あ……私も自己紹介しなきゃ……！

「えっと、私は日向星です。ステラっていう名前で、音楽活動をしています。特技……という
か、楽曲制作が趣味です」
ぺこりと頭を下げると、水牙くんがくすくと笑った。



「なんでかしくまってんだよ。タメ口でいいって」

同じ学校の生徒だとわかってても、私にとっては動画で見ていたアイドルが目の前にいる状況だから、つかしくまってしまった。

顔を上げると、みんなの視線が突き刺さっていることに気づく。

私が自己紹介をしているからとかそういう感じではなく、観察するよつにまじまじと見られていた。

「あ、あの……」

「いや……まさかあのステラさんが、中学生で俺たちと同じ学校に通ってるなんて……なんだか今でも信じられなくて……」

火虎くんの言葉に、みんなうなずいている。

そ、それは、私のセリフだ……。

まさか PLANET が同じ学校にいるなんて……。

当分は、実感が湧きそうにないっ……。



作戦会議！

「じゃあ、自己紹介も終わったし、これからのこと決めようぜ！」

水牙くんは今後の活動について話し合いたくてうずうずしているのか、「早く席に着け！」とみんなに言っている。

「ほら、星もこっち座れよ！」

言われるがまま、水牙くんの隣に座った。

天文部にあるもの……なんだかいろいろ豪華だな……。

テーブルも、教室で使う机とはちがって、会社に置かれているような大きな会議用テーブル。

椅子もクッション式のしつかりとしたものだし……部屋ってどこもこんな感じなのかな？

私のもう片ほうの隣には土和くんが座って、みんなで長方形のテーブルを囲むように椅子に座る。

「あ、そうだ星、おまえ天文部入れよ！」

「えっ」

水牙くんの突然の提案におどろいていると、隣にいる土和くんも同意するようにならずいた。「そうだね。そっちのほうが、あやしまれないだろうし。すでに他の部活に入ってなかったらだけど……」

そっか……部員でもない私が天文部の部室に入りにいるところを見られたら、変に思われるかもしれないよね。

だったらいっそ、部員になったほうがいいのかな。

「部活には入ってないけど……そういえば天文部って、部活動は何をしているの？」

天文部＝PLANETだったことはわかったけど、天文部が部活動もしているのかはわからない。

「あー……実際には部活動はほとんどしてないんだ。PLANETの活動をするための口実だよ」

「部活動っていう体裁を保つために、年に二回だけ天体観測に行く予定なんだけどね」

土和くんと金色くんが、苦笑いで答えてくれた。

「一応、僕が部長で、火虎が副部長ってことになってる」

なるほど……金色くんと火虎くんは二年生だから、ふたりが中心となって部を作ったのかな。

「昼休みとかも集まれるように、部屋があったほうがいいだろう？」

「ここは俺たちの作戦会議の場所なんだ」

水牙くんと火虎くんの言葉に納得して、私も苦笑いを浮かべた。

ほんとに部活動をする目的じゃなくて、PLANETの活動のためについて感じなんだな。

「顧問の先生に言いつて、星ちゃんの入部届けを用意してもらおうよ」

「ありがとう金色くん」

プロデューサーを務めさせてもらうなら、これからも天文部に出入りすることが増えるだろうし、口実のために入部しよう。

「忙しい時は、休み時間にも集まって準備とか制作をしようかなって思ってるんだ。俺たちは学年もちがうから、ここが集合場所でもあるんだよ」

そっか……火虎くんの言う通り、学年がちがうと集まる場所にも困るもんね。

中庭とか裏庭で、気軽にグループの話なんてできないだろうし……ここはみんなにとつて、とても大事な場所なんだ。

「ステラさんも、いつでも使つてね」

火虎くんの言葉に感謝しながら、ひとつだけあることが気になった。

「あの……せ、星で大丈夫だよ」

ステラさんって呼ばれるのは……ちょっとはずかしい……。

今まで友たちにも話したことがないから、アーティスト名で呼ばれることは滅多になかったし、変な感じだった……。

「えっ……そ、そっか……！ それじゃあ、星ちゃんって呼ばせてもらうね」
自分で言ったものの、名前で呼ばれるのも少し気はずかしいかもしれない。

ふと、視線を感じて木央くんのほうを見る。

「……」

無言のまま、食い入るように私を見ていて、あまりの熱視線にとまどってしまった。

どうしてそんなに見るんだろう……というか、木央くんはさっきからあんまりしゃべって
いない気がする。

水牙くんが無口って言ってたけど……しゃべるのが得意じゃないのかもしれない。

私も言葉で伝えるのが得意なタイプではないから、ちょっと共感だ……。

「じゃあ、今後の話、はじめるぞー！」

早く話したくてうずうずしているのか、水牙くんが声をあげた。

「そうだな。ひとまず、俺たちの活動場所についてなんだけど、主にSNSやネットが中心になると思う。俺たちはWORLDに所属していたとはいえ、まだデビューもしていなかったし、PLANETとワンレコに出演したこともなかったから」

土和くんの言葉に、私もうんうんうなう。

「一時的に話題になったとはいえ……WORLDからの圧力もあるしな。どこの番組も事務所も拾ってはくれないだろ」

ちえっと、舌打ちをした水牙くん。

金色くんが、気まずそうに口を開いた。

「実は……この前決まったドラマの出演も、降板になったんだ」

え……。そうだったんだ……。

金色くんは元子役で、俳優活動もしているって聞いたけど……。やっぱりドラマの出演とかは、事務所に所属しているかどうかに関わってくるのかな……。

「僕が指名でオフアーをもらった役だったんだけど……。どうやら事務所が勝手に断って代役に空音を指名したみたい」

空音さんって、たしかEARTHの人だよな……。？

今一番勢いがある、WORLD所属の三人組アイドルグループのひとり。

「事務所は徹底的に、僕たちをつぶす気だと思う」

そんな……ひどすぎる……。。

「空音は演技うまいし、EARHの中じゃ適任だと思っけどね」

「あいつ、全然練習参加してなかったくせに、演技うまいからな……」

「空音は天才肌っていうか、なんでもそつなくできるもんね……」

金色くんの言葉に、水牙くと火虎くんがため息を吐いている。

どんな人が知らないし、悪いのはきつと空音さんじゃなくて事務所だとは思っけど、あんま

りだ……。

「あ、いめん、EARHの話ばっかりして……とにかく、僕たちは僕たちにできることを最大限してこうと思っっているんだ」

笑顔でそう言った金色くん。

その笑顔を見て、不遇な目にあいながらもあきらめずに前を向こうとしている気持ちが伝わ

ってきた。

うん……現状を嘆いてももしかたがないよね。

それに、逆境は時に武器になる。

不利な状況でも……この五人なら、きっと大丈夫だと私の直感が言っていた。

私はみんなを信じて、そっとサポートできたらいいな。

「ああ。これからどうやってネットで活動していくのか、みんなで話し合っていたんだ。今はテレビと同じくらい、SNSにも影響力がある」

「そうだねー」

活動場所なんて関係ない。

私が見んなをネットの中で見つけたように……みんなの歌は、テレビでもネットでも関係なく、たくさんの人に届くはずだ。

それに、SNSなら私も少しくらいアドバイスできるかもしれない。

「知名度を上げるには、やっぱり基本の活動量を増やすのが一番の近道だと思っ」

「土和の言う通りだ。最近、アイドルのネット活動も増えてきてるよね。ネットアイドルっていう言葉もあるみたい」

「そうなんだ……」

「やっぱり、みんなちゃんと調べてるんだな……」。

私も、今日からアイドルについて勉強しなきゃ。市場調査は基本中の基本だから。

「ネットアイドルについて、俺も少し勉強したんだけど、みんな配信スケジュールとかを決めて事前に告知しているみたい」

火虎くんが、スマホの画面をみんなに見せた。

予定表……たしかに、そういうのもあるとわかりやすい。

テレビの番組も、何曜日の何時からって決まっているし、そういう感じかな？

「スケジュールを決めるのはいいね。楽曲の動画も上げていきたいけど、マルチに活動することで音楽活動にもつながるだろうし……とにかくたくさんの人に、僕たちを知ってもらおう」

金色くんの意見に私もごくごくとうなずいて、カバンの中からメモ帳を取り出した。

忘れないように、全部メモをしておかなきゃ。あとでまとめてみんなに共有しよう。

「俺たちは五人組だから……曜日ごとにひとりずつ動画をアップして、週に一度は全員で配信するのはどうだ？」

みんなの案を、急いでメモに書いていく。

「うん、それいいね！ それぞれの負担も減るし、自分の担当以外の日に編集や用意もできる

し……」

「個人とグループの活動、どっちも見てもらえるしなー！」

「僕も賛成！」

「……いいと思う……」

木央くんも、みんなの意見にこころよくとうなずいている。

きつと発言するのが苦手なだけで、「一生懸命みんなの話を聞いているんだな。」

「曜日ごとに分けるなら……わかりやすく名前でも割り振ろうか。火曜日は火虎、水曜日は水牙、木曜日は木央で、金曜日は金色。俺が土曜日で、日曜日は全員でSNSライブ配信。月曜日は休みっていうのはどうだ？」

土和くんの案に、みんな首を縦に振っている。

「おう、そうしよつぜー！」

「動画や配信のコンセプトとか、必要なデータの準備とか……やることは盛りだくさんだね。注目が集まっている今のうちに、今後のことを固めて発表したい！」

「うん……」

「でも、毎日誰かが動画をアップして、週に一度全員で……けっこうハードになりそうだね……」

火虎くんが、心配そうにあははと笑った。

たしかに、学校もあるし、配信以外に音楽制作や歌やダンスの練習もってなると、なかなかハードなスケジュールだ。

「大丈夫だ。忙しさは今までと変わらないだろ」

土和くんの返事に、火虎くんは「たしかに」と笑った。

「俺たち学校以外の時間、用事がない日は毎日集まってるもんね」

え……？

「毎日集まって練習してるの？」

「当たり前たる。練習しないと体がなまるんだよ。やらないとうまくもなんねーしな！」

「そうなんだ……休日とか……遊んだりは？」

放課後にどこか行こうってなったりすると思うし……。

「プライベートで出かけたりは……僕たちは滅多にないね」

「トップアイドル目指すなら、そんなヒマねーだろ」

「そうそう、俺たちが遊んでる間もライバルたちは頑張ってるんだって思ったら、うかうか遊んでられないよねー！」